

Title	ガリア掲載論文一覧(創刊号-第30号)
Author(s)	
Citation	Gallia. 30 P.89-P.97
Issue Date	1991-03-31
Text Version	publisher
URL	http://hdl.handle.net/11094/5381
DOI	
rights	
Note	

Osaka University Knowledge Archive : OUKA

<https://ir.library.osaka-u.ac.jp/>

Osaka University

ガリア掲載論文一覧

(創刊号～第30号)

創刊号 (1953年)

パスカルの道——「パンセ」を中心に	和田 誠三郎
風に寄する讃歌	ジョワシャン・デュ・ペレー 竹友 藻風 訳
フランス文学研究の一方向	伊 吹 武 彦
哲学と文学	澤 瀉 久 敬
アラン・フルニエ——夢とノスタルジー——	田 中 栄 一
コルネイユ (一) 恋愛	持 田 坦
マルローに於ける人間の問題	井 上 三 郎
アメリカに於ける仏語学・仏文学に関する学位論文について	荘 保 三 郎

第2号 (1954年)

フロオベール研究——書翰を通して見たる彼の芸術——	和田 誠三郎
---------------------------	--------

第3号 (1955年)

パスカルと方法——(パンセ)を中心に——	和田 誠三郎
ラ・フォンテーヌの「寓話詩」の文体因子について(1)	林 和 夫
Alain 研究 I	原 亨 吉
ミュッセの芸術観	田 中 栄 一
「メリット」の体験	持 田 坦
フランス文学批評の研究	向 井 敏

第4号 (1958年)

パスカルの「冥想録」から——Pensée pascalienneについて——	和田 誠三郎
《La Veuve》の問題	持 田 坦
真空の問題にあらわれたパスカルの自然観	赤 木 昭 三
ラシーヌ研究……(I) 悲劇性について	浅 野 富美子
前期古典主義時代の劇と劇論——actionの単一性を中心として——	伊地智 均
Fr. Rabelaisにおける否定の補充詞について——Pas, point et analogues——	梅 垣 浩 一

第5号 (1960年)

L'Evolution des Cultures et le Sens de l'Homme dans le Musée Imaginaire d'André

Malraux

Jean Bégulier

前期古典主義演劇理論における action の問題

伊地智 均

モンテーニュに於ける人間的理性の観念

上田 友子

パスカルの数学論文についてのノート (1)

A. D. D. S. への手紙およびホイゲンスへの手紙をめぐって。運動学的な観点から。

原 亨 吉

第6号 (1961年)

EXAMEN DES TEXTES MATHEMATIQUES DANS LES ŒUVRES COMPLETES

DE PASCAL D'APRES L'EDITION DES GRANDS ECRIVAINS DE LA

FRANCE

Kokiti Hara

第7号 (1962年)

Les révoltes de Simone de Beauvoir et l'existence d'autrui

Jean Bégulier

パスカルの「パンセ」における予言に関する一考察

森 川 甫

LA FONTAINE の自由間接話法

岡野 輝 男

QUELQUES ADDITIONS A L'EXAMEN DES

TEXTES MATHEMATIQUES DE PASCAL

Kokiti Hara

第8号 (1968年)

古代フランス語の自由間接話法

岡野 輝 男

Isabelle ou Le Journal amoureux d'Espagne は Madame de La Fayette の

作品だろうか? — Isabelle ou Le Journal amoureux d'Espagne,

La Princesse de Clèves 及び Zaïde に出現する語彙の比較 —

福 田 富 子

Madame Bovary 研究 — 色と心理 —

難 波 崇 子

「感情教育」におけるクロノロジーとフローベールのリアリズムについて

中 島 真由美

BALZAC におけるユートピア的世界像の形成と階級意識 — 「田舎医者」論 —

草 壁 八 郎

第9号 (1969年)

イリュミナシヨンの初期作品の問題

泉 敏 夫

"UNE SAISON EN ENFER" ET "ILLUMINATIONS"

Atsuko Takaoka

第10, 11合併号 (1971年) 和田誠三郎教授退官記念号

<i>De l'origine des fables</i> の独創性	赤木昭三
Marivaux劇とDancourt劇における娘たち	赤木富美子
<i>Cinna</i> における国是raison d'Etatの確立	伊地智均
SUR LA SOURCE DU BATEAU IVRE	Toshio Izumi
ランボオ私見——Arthur Rimbaud——	上野茂男
現代詩への架橋——ポオドレエルからマラルメへ——	上村邦子
古代フランス語における自由間接話法のいわゆる「近代的用法」について	岡野輝男
芥川龍之介に見るプロスペル・メリメ——「秋」と「二重の誤解」をめぐって——	
	柏木隆雄
RACINEの作品におけるAntithèseについて	高岡幸一
Paul Eluard avant Paul Eluard	宝子伸治
初期の「エッセー」におけるエッセイエの方法	竹田英尚
劇について——パスカル論序説のためのノート——	田辺保
「人間喜劇」における神と悪魔	中村加津
十字架の道	ポール・クロードル 中村篤子訳・解説
Proustの芸術的本質を表わすイマージュと作品構造——内容と形式の一致——	
	長谷川富子
PASCAL ET WALLIS AU SUJET DE LA CYCLOIDE (II)	Kokiti Hara
『聖アントワヌの誘惑』覚書——その二, ある未定稿をめぐって——	平田靖
モンテーニュ研究の歴史——ヴィレーおよびボルドー市版以後;	
モンテーニュ研究の問題と視点——	広島敏史
悲劇の終焉——SOPHONISBE論争によせて——	持田坦
西田哲学のパスカルへの共感	森川甫
COMMENT PEUT-ON ETRE PERSAN?	J.-L. Rousse

第12号 (1972年)

MARIE DE FRANCE——人物と作品の成立順——	大高順雄
<i>Les Nouvelles françaises</i> (1623) の新しさ	田子島屋和子
二人の怪異作家——泉鏡花に見るプロスペル・メリメ——	柏木隆雄
ヴァレリーの詩と建築——“海辺の墓地”をめぐって——	長谷川富子

第13号 (1973年)

<i>Le Palais d'Angélie</i> の魅惑と興味	田子島屋和子
Cyranoカルテジヤン (1)	赤木昭三

- STRUCTURE SPATIALE DES TRAGEDIES RACINIENNES—LIBERATION D'UN
 ESPACE CLOS DANS LA VIE INTERIEURE DE RACINE— Yasuko Takasima
 モーリアック (1) モーリアックの思想構造 高瀬英彦
- 第14号 (1974年)
- Cyranoカルテジヤン (2) 赤木昭三
 パスカルの「三つの秩序」 永瀬春男
 La Conscience historique de Voltaire Junko Takeda
 マラルメにおける〈不毛性〉について 加覧伸彦
 La Femme unique ou universelle dans la Poésie de Paul Eluard
 — à travers la recherche de l'image de la "lumière" — Kazuko Nakajima
- 第15号 (1975年)
- VIRGILE ET HESIODE—Notes sur l'allégorie de la *Renommée*
 dans *l'Enéide* IV— Koichi Takaoka
 La Signification morale dans *Les Nouvelles françaises* de Sorel Kazuko Orita
 LA COURBE SENTIMENTALE—Etude sur *l'Education Sentimentale*—
 Kayoko Kashiwagi
- 第16号 (1976年)
- L'ETUDE DES RIMES DANS LES LAIS DE MARIE DE FRANCE Yoshitaka Haruki
 モンテーニュの思索の歩み—『エッセー』の構造とその論理に見る—
 — (その九) — 竹田英尚
 LA COSMOLOGIE DE PAUL CLAUDEL Junko Okuda
 La Structure esthétique d'*Aventures de Jérôme Bardini* de Giraudoux
 Kazuyo Nakayama
 モーリアックの回心をめぐって 柏原紀久子
 モーリアック (2) モーリアックの〈enfance〉考 高瀬英彦
- 第17号 (1977)
- ボオドレエルにおける白鳥神話の位置 上村邦子
 Images métaphoriques dans les *Poésies* d'Arthur Rimbaud Atsuko Takaoka
 シモーヌ・ヴェーユ—その自由観と現代文明批判— 宮川文子
 Analyse formelle du récit dans *L'Etranger* d'Albert Camus Kikuko Tachibana

第18号 (1978年) 岸本通夫教授退官記念号

UN TEXTE MECONNU SUR L'ATTRIBUTION DE *L'HISTOIRE*

COMIQUE DE FRANCION

Shozo Akagi

フランス語肯定文のイントネーションについて——名詞句に焦点をあてて——

初期マラルメにおける白鳥神話	阿南 婦美代
「bobéobi」の“意味”——フレイブニコフと詩的言語——	上村 邦子
カタロニアの文学	枝川 昌雄
クローデルにおける《フォルム》の概念について	大高 順雄
『聖アントワヌの誘惑』における霊と肉	奥田 純子
『ウジェニイ・グランデ』献辞考	柏木 加代子
ランボーの形而上学的闘争	柏木 隆雄
マラルメの想像的太陽——金髪詩篇をめぐる——	金崎 博子
	加覧 伸彦

REMARQUE SUR LA METAMORPHOSE DE *LA JEUNE PARQUE* Takashi Sasabe

ANALYSE SEMANTIQUE STRUCTURALE DE L'ŒUVRE D'ALBERT CAMUS

Kikuko Tachibana

草稿ノート3の光の記述——『失われた時を求めて』の創造過程の一面について——

	長谷川 富子
『三つの物語』の構図	平田 靖
ロートレアモンに於ける悪	福田 きみこ
シモーヌ・ヴェーユのキリスト教観——近代科学との関係から——	宮川 文子
L'UNIVERS DE VILLIERS DE L'ISLE-ADAM DANS SES CONTES——UNE	
ETUDE SUR LE RAPPORT ENTRE LA TECHNIQUE ET LE THEME——	

Hiroko Mukudai

第19号 (1979年)

デカルト『幾何学』への幾つかの新しい注	原 亨吉
サン・テヴルモンの歴史観	竹田 順子
ロマン主義詩人と白鳥神話	上村 邦子
SUR L'ARRANGEMENT DES POEMES DANS <i>LES FLEURS DU MAL</i>	

Nobuko Miyake

『純な心』と『エロディアス』——『三つの物語』の制作意図を考える——	金崎 春幸
MARGUERITE DURAS ET LA DESTRUCTION CAPITALE (1)	Henri Micciollo

- 第20号 (1980年)
- ジャン・ド・シヨンに於ける証明の問題 永瀬春男
 ネルヴァルにおける祝祭の観念——〈*Voyage en Orient*〉=祝祭の中の旅——
 七尾 誠
 ボードレルにおける〈海〉の変貌——『悪の華』から『パリの憂愁』へ—— 北村 卓
 「車窓の夜明け」の4つの草稿——モチーフの増殖と変貌—— 吉田 城
 LE CHANGEMENT DE POINT DE VUE DANS A LA RECHERCHE
 DU TEMPS PERDU Akio Wada
 MARGUERITE DURAS ET LA DESTRUCTION CAPITALE (2) Henri Micciollo
- 第21, 22合併号 (1982年) 原亨吉教授退官記念号
- ROHAULT, DESCARTES ET *FRAGMENT*
 DE *PHYSIQUE* DE CYRANO DE BERGERAC Shozo Akagi
 LA FONCTION MORALE DU RECIT ESOPHIQUE DANS LES
FABLES DE LA FONTAINE Keiko Ishii
 論説詩の崩壊——ロンサールの転機—— 岩根 久
 ヴァレリーの時間意識 岩間 正邦
 Montaigneにみられる実存的思想の萌芽 上田 友子
 象徴形成論の射程 枝川 昌雄
 POUR RESTITUER LES MOTS ABREGES MANUSCRITS Yorio Otaka
 プロパガンダのストラテジー——ガルガンチュワの変貌と構成について—— 鍛治 義弘
 FLAUBERT ET LE THEATRE Kayoko Kashiwagi
 LE ROLE ET LA SIGNIFICATION DU CELIBATAIRE
 DANS *PHYSIOLOGIE DU MARIAGE* Takao Kashiwagi
 モーリヤックにおける engagement と創作活動に関する一考察 柏原 紀久子
 LES PONTS DANS *L'EDUCATION SENTIMENTALE* Haruyuki Kanasaki
 ボードレルの散文詩『孤独』に関する考察
 ——「ラ・プレス」紙の「校正刷」をめぐって—— 北村 卓
 Nervalの晩年の作品に見られる自伝性の問題 小林 宣之
 『ボヴァリー夫人』と当時の女性の状況 小山 美沙子
 LUIGI RICCOBINIの催涙喜劇擁護 末次 義
 マラルメの *Contes indiens* —— その書き換えのテクニックについて —— 高岡 厚子
 NOTES SUR L'EMPLOI DE L'ADJECTIF *LAETUS* CHEZ VIRGILE Kooichi Takaoka
 サン・テヴルモンの老年 竹田 順子
 ヴィレーの『エッセー』研究に対する一小批判 竹田 英尚

- LECTURES STRUCTURALES DU *RENEGAT* (1) 1979年10月号 永瀬純子
 ET DE *LA CHUTE* D'ALBERT CAMUS 1980年1月号 Kikuko Tachibana
 UNE ANALYSE DU "ROMAN" D'ANDRE GIDE 1980年2月号 Nobuko Tatekawa
 『東方の認識』における太陽のテーマ 1980年3月号 永瀬純子
 ジャン・ド・シヨンと「知慮」の概念——護教論と政治論の接点——(その1) 1980年4月号 永瀬春男
 バルザック『人間喜劇』における『十三人組物語』の意義 1980年5月号 中村加津津
 クローデルの百扇帖について 1980年6月号 中山篤子
*Les Filles du Feu*における《幽閉》のテーマと叙述構造 1980年7月号 七尾誠
 プルーストの内的世界とジョットの寓意画 1980年8月号 長谷川富子
 RESIDU DE L'ANALYSE GRAMMATICALE——IMPERSONNEL
 DISCURSIF DU FRANÇAIS—— 1980年9月号 Yoshitaka Haruki
 ヴィクトル・ユゴー『死刑囚最後の日』を廻って——その内的構造—— 1980年10月号 前田俊一
 シモーヌ・ヴェイユの「作家の責任」をめぐる——その内的構造—— 1980年11月号 宮川文子
 LA CRITIQUE D'ART DE BAUDELAIRE ET LAVATER 1980年12月号 Nobuko Miyake
 ヴィニーの想像的空間(Ⅲ)——Idéesをめぐる—— 1981年1月号 向井邦夫
 カルヴィニストとジェズイットの論争——パスカルの『プロヴァンシアルの手紙』
 に対するヌエ神父の反駁文書に関連して—— 1981年2月号 森川甫
 プルーストと性的風景 1981年3月号 吉田城
 『失われた時を求めて』における glissementの機能 1981年4月号 和田章男
 1981年5月号 和田章男
 1981年6月号 和田章男
 1981年7月号 和田章男
 1981年8月号 和田章男
 1981年9月号 和田章男
 1981年10月号 和田章男
 1981年11月号 和田章男
 1981年12月号 和田章男
 第23号 (1983年) 1983年1月号 和田章男
 ROHAULT, DESCARTES ET LE *FRAGMENT DE PHYSIQUE* 1983年2月号 小川信之
 DE CYRANO DE BERGERAC (2) 1983年3月号 Shozo Akagi
 「ファチーノ・カーネ」小考 1983年4月号 柏木隆雄
Angélique——Nervalの最初の自伝—— 1983年5月号 小林宣之
 Les scènes à la manière d'Henry Monnier 1983年6月号 和田章男
 dans *la Première Education Sentimentale* 1983年7月号 Kayoko Kashiwagi
 フローベールの作品における光——『ボヴァリー夫人』の場合—— 1983年8月号 小山美沙子
 Un sonnet souvent décrié des *Fleurs du Mal*: *La Cloche fêlée* 1983年9月号 Agnès Disson
*Les Faux-Monnayeurs*への過程 1983年10月号 立川信子
 シモーヌ・ヴェイユの労働観——その主知的側面—— 1983年11月号 宮川文子
 1983年12月号 宮川文子
 第24号 (1984年) 1984年1月号 和田章男
 ラブレールの笑いに關する一考察 1984年2月号 和田章男

- 『パンタグリュエル』の三つの挿話をめぐって— 鍛治 義 弘
 ラ・フォンテーヌ、『ペストにかかった動物たち』における円環構造 石井 啓 子
 MODERNITE DE VERLAINE: UN POEME, CHARLESROI Agnès Disson
Délires II—*Alchimie du verbe*の一節への一解釈 小谷 征 生
 アンドレ・ジッドの四つのレシの構成について 打田 素 之

第25号 (1985年)

- 白いヘレネーと黒いヘレネー (その一) 上村 くにこ
 Julien Sorelのhypocrisieと読み手の問題 粕谷 雄 一
 ネルヴァルにおける〈flânerie〉(1) 七尾 誠
 ボードレルにおける散文詩制作の過程—1855~1862— 北村 卓
 Derniers récits ou nouveau roman? — Analyse des 〈histoires〉
 dans les sept récits d'André Gide— Motoyuki Uchida
 シモーヌ・ヴェイユの労働観—工場体験と新たな方向— 宮川 文 子

第26号 (1986年)

- 白いヘレネーと黒いヘレネー (その二) 上村 くにこ
 La première version imprimée de *Du Bonheur de Fontenelle* Shozo Akagi
 スタンダール『恋愛論』における「恋人の長所」の实在性をめぐって 粕谷 雄 一
Les Nuits d'octobre—仮装された自伝— 小林 宣 之
*Une saison en enfer*における*Délires I*—*Vierge folle*の二重の働き 小谷 征 生
 シモーヌ・ヴェイユの労働観—美とのかかわり— 宮川 文 子
 使役構文について 木内 良 行

第27号 (1987年)

- Qu'est-ce qu'ils ont vu du haut de Paris? — Sur le destin des héros balzaciens:
 Eugène de Rastignac et Lucien de Rubempré— Takao Kashiwagi
 『マルドロールの歌』の〈ナラシオン〉—『第一の歌』の受取人の問題— 寺本 成彦
 『狭き門』における三角形と四角形—レシの象徴的解釈— 打田 素 之
 使役構文について (二) 木内 良 行

第28号 (1988年)

- La figure du diable chez Noël du Fail: les *Contes et Discours d'Eutrapel*
 Marie-Claire Bichard
*Hécatombe à Diane*の世界 浜田 明

- Armance* ou la construction oblique Yuichi Kasuya
 ボードレールにおけるバルザック観の変遷 金崎博子
 イリュミナシオン『暁』について 小谷征生
- La métamorphose d'Orphée chez Cocteau— Sur le passage du
monde des vivants au monde des morts— Kazuyuki Matsuda
- 第29号 (1989年)
- 『人間喜劇』の序をめぐる——バルザックとロマン主義管見—— 柏木隆雄
 『ボヴァリー夫人』における〈pyramide〉と〈papillons〉について 戸田幹夫
 Sur *Isis* de Villiers de L'Isle-Adam Hiroko Konishi
 Le mythe caché derrière les faits et l'histoire d'*Isabelle* Motoyuki Uchida
 ロブ＝グリエ『消しゴム』における虚構創造の問題 神田修悦
 使役構文について——移動を表す動詞の場合—— 木内良行
- 創刊30号記念号 (1990年)
- Remarques sur Balzac et Viellerglé Hachiro Kusakabe
 Baudelaire critique d'art— du Salon de 1845 au Salon de 1846— Hiroko Kanasaki
 ボードレールにおける「反＝宗教」の思想——「聖なる売春」と
 『悪の華』の詩学—— 徳永文和
 Villiers de l'Isle-Adamの作品に隠された意味 小西博子
 Rimbaud et Jules Verne— Au sujet des sources du *Bateau Ivre* Atsuko Takaoka
 Sur les images de la lumière dans *Le Soulier de Satin* Atsuko Kimura
 『ドルジェル伯の舞踏会』試論 松田和之

第6号以降は残部があります。お入り用の方は号数、部数明記の上お申し込み下さい。普通号500円、記念号1000円（送料別）です。